Ⅲ．盛岡城跡の特性の検討

盛岡城跡の最大の特性として，近世城郭としての歴史的価値とともに，明治以後に付加された文化的価値が複合していることがあげられる。明治時代に長岡安平の設計により，岩手公園として整備され，新しい盛岡の名所として市民に親しまれ，石川啄木，宮沢賢治の作品の舞台にもなっている。つまり，近世には盛岡の政治行政の中心である「城」として、近代以降は「城跡」でありまた「公園」として，盛岡の歴史的文化的価値の象徴としての歴史を積み重ねてきたといえる。

本計画の策定にあたっては，こうした盛岡城跡の特性を今後の整備に活かしていくために，「近世城郭としての歴史的特色」と「公園としての文化的価値」について検討を行った。また，現在の盛岡市において盛岡城跡に期待される役割についても検討を行った。

１．近世城郭としての特色

ａ．東北有数の総石垣造りの城

盛岡城は本丸，二ノ丸，三ノ丸等主要な曲輪（くるわ）の周囲にすべて石垣を廻らした総石垣造りの城である。これは土塁の多い東北地方の近世城郭としては珍しく，会津若松城，白河小峰城とともに東北石垣造りの三大名城に数えられているほか，財団法人日本城郭協会により日本 100 名城に選定されている。

石切丁場でもあった城内には，大形の花崗岩が「烏帽子岩」として象徴的に残されているほか，矢穴をあけながら切り出されていない転石が残されていることや，分割した石材を左右組または上下組に積上げている「ふたご石」が確認されているほか，石垣普請に携わった奉行銘が刻まれた石垣も２箇所確認されている。

また，16 世紀終末の築城期から 18 世紀中葉まで築造および積み直しが行われたため，場所により様々な様式の石積みを見ることができる点も特色の一つとなっている。

ｂ．連郭式と回郭式を合わせた縄張り

盛岡城の縄張りは，内曲輪（うちくるわ）の最高地点に本丸を置き，北に向って二ノ丸，三ノ丸，下曲輪（しもくるわ）が段下がりに連なる連郭式（れんかくしき）を基軸に，本丸背後（南側）に腰曲輪（こしくるわ），二ノ丸西側に榊山稲荷曲輪（さかきやまいなりくるわ）を構築し，さらにこの全体を一段低い曲輪が囲む回郭式（輪郭式（りんかくしき））の縄張りを合わせた構成となっている。

本丸から下曲輪まで連続的に配置された虎口（こぐち）は，連郭式縄張りの様子をよく表している。特に鳩門から二ノ丸虎口までは虎口間の距離が短く，虎口の連続性が高くなっている。

また，全体の規模に比して本丸の規模が小さく，本丸内に城の施設として重要な井戸が存在しないことなどから，本丸と腰曲輪が一体の曲輪として縄張りされていたと考えられことも，特色として挙げられる。

ｃ．特色的な建物配置

本丸と腰曲輪を一体とする縄張り上の特色を反映して，本丸と腰曲輪は百足橋によって連絡され，幕末期には本丸二階櫓・長屋および本丸御殿二階と接合するような形で，腰曲輪西側に聖（せい）

長楼（ちょうろう）と呼ばれる重層建物が設置された。

ｄ．船入，筋違橋など北上古川に設置された特異な施設

坂下門付近に設置されていた筋違橋（すじちがいばし），枡形（ますがた）門西側にあった舟入（ふないり）など，堀としていた北上古川に防御や舟運のための特異な施設を設置し，川を縄張りに巧みに活かしていた。

２．近代公園としての文化的特色

明治時代の公園整備により盛岡城跡は，一般市民や県民が憩うための公園として再生された。公園の設計にあたった長岡安平は，明治年代から大正初期の公園設計の第一人者であり，飛鳥山公園や向島百花園の改修等，数多くの公園や街路の計画や設計，改修にあたった我が国のランドスケープデザインのパイオニア的存在であった。

公園設計にあたっては，地域の自然や特色を生かすことを要諦としており，公園整備に伴う南部家と岩手県との貸借契約書において，「城域の保存」を重んじることが明記されていたこともあり，城跡の遺構を活かしながら近代的な機能を備えた公園整備が行われた。

現在残されている図面および写真から，公園の設計にあたっては以下の点に配慮が払われたことが考えられる。

ａ．曲輪の広がりを活かした広場整備

曲輪の空間的な広がりを活かして，公園的な緑地広場の整備を行っている。特に台所は運動場として利用できるよう，園路等も設けずに平場をそのまま一つの大きな広場としている。二ノ丸や本丸も公園として必要な最小限の園路の設置や，緑陰・点景とする樹木を植栽しながら，緑地広場としての整備を行っている。

ｂ．遺構・眺望を活かした環境整備

内堀を鶴ヶ池として整備し親水空間とする，烏帽子岩と時雨の松を活かして日本庭園風の修景を行う等，城の遺構を巧みに活かした景観整備を行っている。また，岩手山や中津川の眺望を楽しめる場所を中心に，四阿を設置している。

ｃ．季節の風趣を楽しめる植栽整備

ウメ，サクラ，モミジ等，城跡の歴史的な景観に適う樹木を植栽し，季節の風趣を楽しむことができる公園としている。また，台所には花壇を設けて近代公園的な設えで花を楽しめる空間を提供している。

ｄ．新たなモニュメントの創出

三重櫓など近世城郭を象徴した建物に代わり，明治期には南部中尉騎馬像を岩手公園の新たなモニュメントとなるような整備を行っている。二ノ丸側の入り口からも腰曲輪側からの入り口からも，南部中尉騎馬像がまず視界に入るように配慮したことが，古写真からうかがえる。

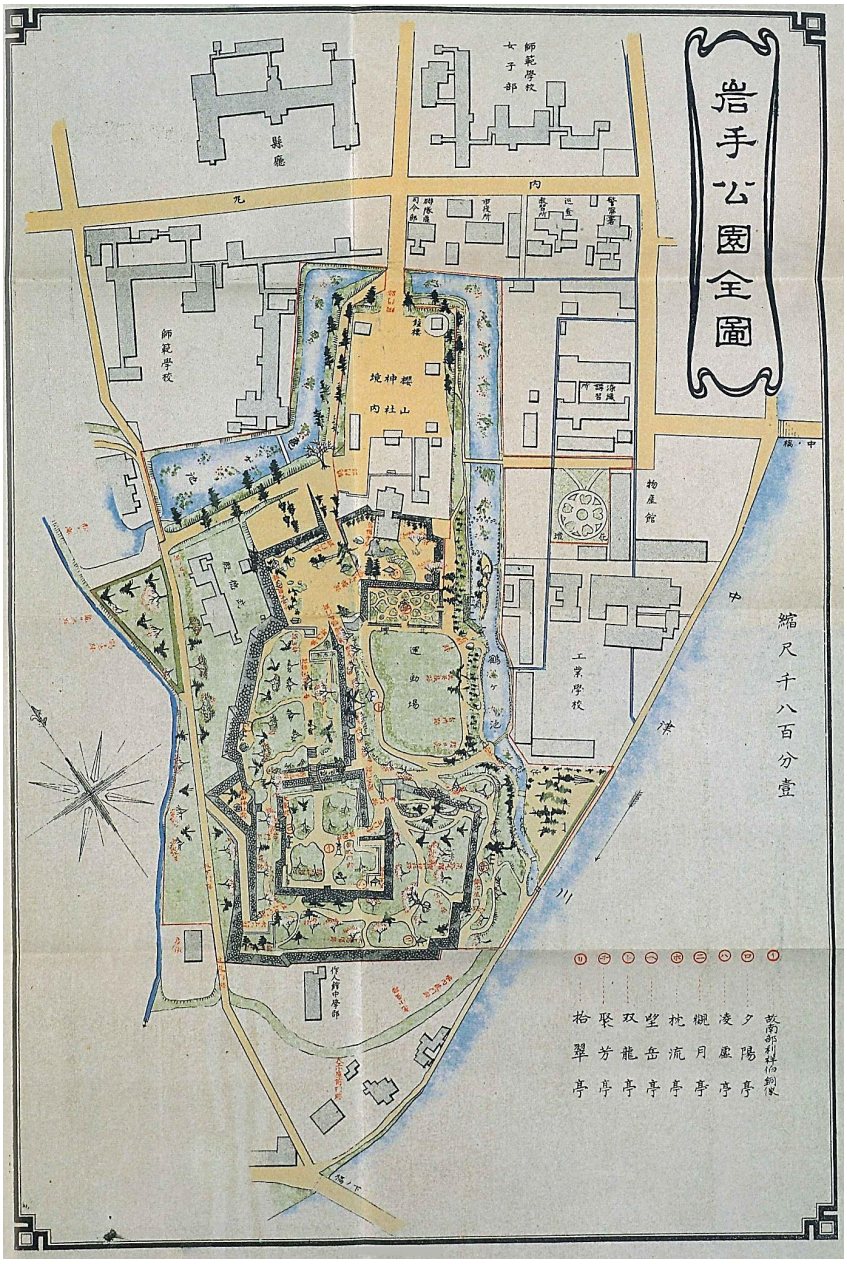
なお，以上のような評価があげられる反面，虎口，土塁，大書院跡の地形等が改変されたほか，動線上の利便性を高めるため，石垣の一部を改変して石階段の新設等が行われている。

３．期待される役割

盛岡城跡は市街地の中心にあり，周辺には啄木賢治青春館，岩手銀行旧本店本館などの文化施設，文化財等が数多く存在している。

この条件を活かし，児童・生徒が盛岡の歴史を学ぶことができ，市民が盛岡城を中心とした「まち」を学び考えることのできる場として，さらには，まちなか観光の中心的存在として機能することで中心市街地の活性化に寄与することが求められている。こうした期待は，もりおか歴史文化館の開館に伴い今後一層強くなることが考えられる。

また，豊富な緑量を持つ市民の憩いの場としての役割のほか，市街地における災害時の避難場所としての役割も有している。



開園直後の岩手公園（図説盛岡四百年下巻Ｉより転載）